



研究テーマ

大学における地域貢献と活動拠点のあり方研究

目的・概要

(1)既存の大学の地域貢献活動と活動拠点の網羅的な研究

(2)浜松地域での静岡文化芸術大学独自の地域貢献メニューの開発の在り方の研究をすることで、静岡文化芸術大学の地域貢献活動の将来ビジョンに資するとともに、研究に学生の参加を促すことで学生参加型の地域貢献研究を進める。

期間

平成 25 年 4 月 1 日 ~ 平成 26 年 3 月 31 日

研究担当者

下澤嶽（国際文化学科）、池上重弘（国際文化学科）
田中啓（文化政策学科）、峯郁郎（生産造形学科）、
和田和美（メディア造形学科）

スケジュール

2013 年 6 月
~8 月

打ち合わせ、調査の設計と日程調整、資料収集



2013 年 9 月
~10 月

出張調査、調査結果のシェア、 地元グループとの対話調整



2013 年 11 月
~14 年 1 月

地元グループとの対話と情報 収集、研究発表会の打ち合わせ
と調整



2014 年 2 月
~3 月

研究発表会、報告書の作成



交流お芝居会 2013.10.13

研究成果

研究、大まかに以下の 3 つの部分に分けられる。

- (1)日本社会の大学の地域貢献を包括的に分析する点
- (2)「サービス・ラーニング」「災害対応」「ものづくり」「芸術」といったキイシューごとの個別研究、
- (3)専門化を招いた研究会を通し、「SUACらしい地域貢献」の意見統合

以上の研究と対話を通して、以下のような点がクリアにできた点に成果があるのではないかと考えている。

- (1)大学の地域貢献には長い歴史があり、それが 2000 年以後急速に高まっていること。ただし、そこには貢献をする「主体」の変化、貢献を受ける「客体（地域）」をどう考えるかの変化があり、これまでそれが部分的、個別的だったものが、それぞれ統合化が進んでいること。
- (2)個別のキイシューから、具体的な事例を通して、その可能性と課題が以前よりもはっきりと理解できたこと。
- (3)SUACらしい地域貢献として①「実践演習」という地域貢献と教育的なシステム構築の必要性、②「地域とものづくり」「地域と文化」といった分野に SUAC の特長が出しやすいこと、③学生サークルやゼミ研究活動といったもともとある学内の活動を地域交換活動に転化する可能性、が指摘された。



インタビュー（西会津国際芸術村）

今後の研究成果の還元方法

2014 年度から地域貢献室が設置され、新しい地域貢献の足がかりが大学内にできた。今後大学の地域貢献の方針や計画作成時において意見や提案を続けていくことによって、研究の成果を還元していきたい。